

潮来市の誇れる自然 第95回

北浦で社会人や小学生がフィールド体験！

北浦の近くにある茨城大 watu 環境フィールドステーションは、全国の大学生が湖沼環境・生態系について体験的に学ぶ施設として、文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定されています。夏休みには主に大学生が、ほかの時期には社会人や小中高生などもフィールド体験に来てくれます。

5月16〜17日には、社会人向けリカレント教育の一環で、放送大学の授業「湖沼の外来種問題の最前線」を開講しました。茨城県内のほか東北・関東・近畿圏の計16名が参加してくださいました。1日目は環境問題とその変遷、外来種などについての座学のと、外来植物ナガエツルノゲイトウの繁茂する現場を視察し（写真1）、外来ナマズ釣りや魚類相モニタリング調査を体験していただきました。2日目は生物の観察・同定・計数をしながら生態系の現状を確認したのち、外来種問題について議論しました。社会経験のある方々ならではの視点にホスト側にも多くの学びがありました。

6月10日には、延方小学校4年生50名ほどが水辺環境について体験的に学ぶ授業があり、「北浦湖岸の自然を守る会」のお手伝いで、水質や生きものに関する講師役として本学の大学院生が参加しました。小学生たちは水質を検査したりニホンウナギなどに触れたりしながら（写真2、3）、北浦の水環境や生きもののために何ができるかについて考えてくれました。

地域の暮らしや産業を支える水資源と生態系を将来世代につないでいくために、さまざまな世代がその大切さを体験できる機会をこれからも増やしていければ…と考えています。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション
加納光樹・金子誠也・加藤隼太・松崎和歌



写真1
外来種ナガエツルノゲイトウの群落の視察



写真2 ニホンウナギ



写真3
ウナギやコイを観察する生徒たち

地域おこし協力隊通信

第84回



山本 凌さん
(やまもと りょう)

プロフィール

出身地:
京都府京都市

趣味:
仕事・料理・音楽

はじめまして。2026年4月に潮来市地域おこし協力隊に着任した山本です。潮来へ来る前は、ほぼ東京で生活していましたが、茨城には実を言うと人生初来訪にして初移住。

主に自転車を使って地域振興をテーマに活動しています。茨城県にはいくつもの大きなサイクリングルートがあり、その一つの「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は潮来市もルートに含まれています。しかし、霞ヶ浦一周（通称「カスイチ」）を行う多くの人々は、潮来駅周辺や道の駅まで訪れる方は少ないのが現状です。

潮来市には、食事処や食材そのもの、自然の景色や花など多くの魅力があり、霞ヶ浦に来る人々やこれから来よう、来てみたいと思っただけのように尽力したいと思います。また自転車を、地域の交通手段として守ることに加えて、サイクリング健康寿命や生活習慣病の予防などヘルスケアとして楽しめる、潮来に新しい「文化」としての自転車を創っていきたく考えています。

潮来へ来て早3か月が経ちますが、自転車に乗るところがイベントでカフェ担当したり、ポスターやあやめ園Tシャツなどをデザインしたり、ありがたいことに畑をお借りして家庭菜園にチャレンジするなど「自転車はどこへ行った？」と思われるような活動ばかりが目立っています。

早速潮来ライフを満喫させていただいておりますが、潮来一年生をどうぞよろしくお願いたします！